

令和5年度小松市立国府中学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">集団づくり</p>	<p style="text-align: center;">＜主体的・対話的な集団づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級会を定例に行うことで学校や学年・学級の課題について活発に話し合う場を設定する。 ・学年委員会等を活用し、学年目標達成に向けた学級力の向上及びリーダー育成を図る。 ・国府のつどいや執行部会、生徒議会を中心に、執行部や各専門委員会の取り組みの周知や結果報告を行うことで、生徒の連帯感や達成感を高める。 ・週に一度KOKUFUトークを実施し、相手意識を持って考えを伝え合うことで共感的な人間関係を高める。 <p>【客観的評価（アンケートより）】 ①学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 ②話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えを伝える。</p> <p>上記①②について、90%以上の肯定的な回答を目指す。</p>	<p>各学年において月1の学級会や週1のKOKUFUトークを実施し、学級目標や遠足・修学旅行のルール、身近な話題等について学級で話し合い、考えを深めることができた。生徒アンケート項目（左記①②）では共に90%以上の回答があり、全校集会で共有した「相手の考えを最後まで聞き、肯定的に受け止める」ことができた生徒が多かったようである。</p> <p>また多くの学校行事があったが、生徒会や学年委員会が中心となって企画・運営ができ、充実感や達成感を得ることができた。そしてこれまで軌道に乗せられなかった執行部会や生徒議会においては定期的に実施することで生徒は取り組み内容を理解し、互いに連携して活動しやすかった。</p> <p>2学期ではこれらを生かし、生徒会や学年委員会を活用して縦割り学級会を実施し、全校で学校の課題を考える場を設定する予定である。</p>
	<p style="text-align: center;">＜いじめの未然防止、早期発見に向けて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会や教育相談部会を中心に、日頃より生徒の変化を把握し、定期的な情報交換により迅速・適切な対応を全職員の間で共通認識のもとに取り組む。 ・各種アンケートや定期面談、生活設計ノートなどの行動観察を学校全体で実施し、いじめの未然防止・早期発見に努める。 ・エンジェル週間の取り組みやKOKUFUトークなどを通して、日頃から温かい雰囲気づくりを心がける。 <p>【客観的評価（アンケートより）】 ①自分には良いところがあると思う。 ②友達は自分の良いところを認めてくれる。 ③学校生活は楽しいと思う。 ④学校に安心して来ることができる。 ⑤自分には悩みや心配事があるとき、相談できる人がいる。</p> <p>上記①について、80%以上、②～⑤について、90%以上の肯定的な回答を目指す。</p>	<p>各部会において密に情報交換を行い、全職員が共通認識をもって取り組むことができた。いじめの未然防止に向けて普段の行動観察や声かけだけでなく、ふれあいアンケートやQ-Uアンケートを実施して全員と面談を行うなど、生徒に寄り添った対応ができていた。また本校の取り組みとしてエンジェル週間やKOKUFUトークを行い、温かい雰囲気のある居場所づくりができた。生徒アンケート項目（左記②④）で目標数値を超え、効果的に取り組んでいるように感じている。教師のSOSに気づく力を大切にしながら今後も未然防止・早期発見に努めたい。</p> <p>その一方で生徒アンケート項目（左記①③⑤）では目標数値を下回り、やはり生徒の自己肯定感において課題があるように感じる。左記にある取り組みを継続しながら、生徒の良さが発揮できる場を学校全体で考え、設定したい。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">道徳教育</p>	<p style="text-align: center;">＜考え、議論する道徳授業の実践、積み上げ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究や校内研修を通して、全職員で道徳授業の力量を上げ、「考え、議論する道徳」の推進を図る。 ・生徒が授業における自己の変容を実感できるような評価についての研究を進め、実践する。 <p>【客観的評価（アンケートより）】 「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」 「道徳の授業や行事などを通して、人間関係づくりや正しい生き方などについて考えるようになった。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5月初めに、学校研究と連携し、学習用端末を用いた道徳の授業について提案する校内研修を実施した。また、学年によっては級外の先生も入ってのローテーション授業を実施した。 ・1学期生徒アンケートにおいて、「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」(91%)、「道徳の授業や行事などを通して、人間関係づくりや正しい生き方などについて考えるようになった。」(90%)との結果があり、道徳の授業においても「考える」機会が確保され、授業において「考える」活動を通して「深まり」を感じることも多いことがわかる。学期末の振り返りの記述にも、授業で考える前と後の自らの変容や深まりを感じている内容のものが多かった。
	<p style="text-align: center;">＜将来の生き方に希望を持ち、自ら学習に向かう生徒の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな場面で、社会が「働く人々」によって成り立っていることに気づき、自分もその一員となろうという意識を育てる。 ・進路適性検査や自己理解の時間などを活用して自分の特性を知るとともに、伸長のための努力しようとする。 ・成長の証を「キャリアパスポート」に記録する。 <p>【客観的評価（アンケートより）】 職員アンケート 「キャリア学習として、自己理解の時間、将来の夢や目標について考える学習を推進している」 生徒アンケート 「将来のことについて学校生活で考える機会が増えた」「将来の進路について家庭で話している」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行・自主プラン、遠足など校外学習の機会を利用し、さまざまな仕事や働く人の存在について生徒たちに投げかけた。また外部講師を招聘する場面でも講話の内容にとどまらず、現在の仕事のやりがいやキャリアの経歴、今後の生き方についても語ってもらった。教職員の間でもキャリア教育への意識が高いことは職員アンケートからも見てとれる（項目①100%）。また、生徒アンケートでも「将来のことについて学校生活で考える機会が増えた」と答える生徒がほとんどである（83%）。それに比べ「家庭で話している」の項目は若干低く（全学年67%、1年は50%）、身近な職業人である保護者も巻き込むような仕掛けが必要である。今後も「職業人に聞く会」、「ようこそ先輩」（教育実習生）、校外学習等の活動をおして、さまざまな人物から仕事や生き方について聞き取りする機会を儲けたい。 ・各学年で自己理解の時間を開催した。また進路適性検査や進路希望調査も実施し、自己をみつめ、将来を意識させる機会をつくった。 ・活動後にはふりかえりを行い、教室掲示やたよりで交流、適宜、キャリアパスポートに格納している。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">保健健康教育</p>	<p style="text-align: center;">＜心身の健康に関心を持ち、自己及び他者を大切にしようとする生徒の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会各委員会による保健指導、食育指導、体育指導の実施 ・保健体育科教諭と養護教諭が中心となり、各授業や各行事を通して、教科横断的に生徒の心身のよりよい発育、発達を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の1年生の保健の授業で「より良い生活習慣」について学んだ後、学校歯科医を招いて「歯の健康」について保健指導を行った。食べ物とむし歯の関係についても指導していただき、教科横断的に健康指導を推進している。 ・7月初めに、生徒会保健委員会により各学級で「熱中症予防」について保健指導を行った。また、学校だよりや保健だよりを通して、熱中症における正しい知識や本校の対応についても発信している。心身の健康について、学校全体で取り組んでいる。
	<p style="text-align: center;">＜主体的に企画運営に取り組む生徒会指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動への関心を高めるために、魅力ある企画を行う。 ・生徒全員が目的意識と責任感を持って取り組み、やりがいや満足感を感じられる活動内容となるように掲示や「国府のつどい」を行う。 <p>【客観的評価（アンケートより）】 「学級会、kokuhuトーク、国府の集いの定例化など、主体的・対話的な活動の充実を図っている。」 「生徒会活動や委員会活動に参加し、充実感を得ることができた。」について、90%以上の肯定的な回答を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会、kokuhuトーク、国府の集い、運動会、激励会などの活動に目的意識と責任感を持たせ、生徒主体で取り組ませるよう促すことができた。生徒アンケート項目「学級会、kokuhuトーク、国府の集いの定例化など、主体的・対話的な活動の充実を図っている。」 「生徒会活動や委員会活動に参加し、充実感を得ることができた。」では90%以上の回答があり、「やりがいや満足感を感じられる活動」として取り組めた生徒が多かったようである。